

UDLM

1

vol.341

January 31st
2024

都市を魅せる媒体

地図、絵画、博覧会、展覧会、写真、
グラフィックデザイン、朗読など…
私たちに都市を「魅」せる、
多様な「媒体」を特集する。

p.2-7 都市を魅せる媒体

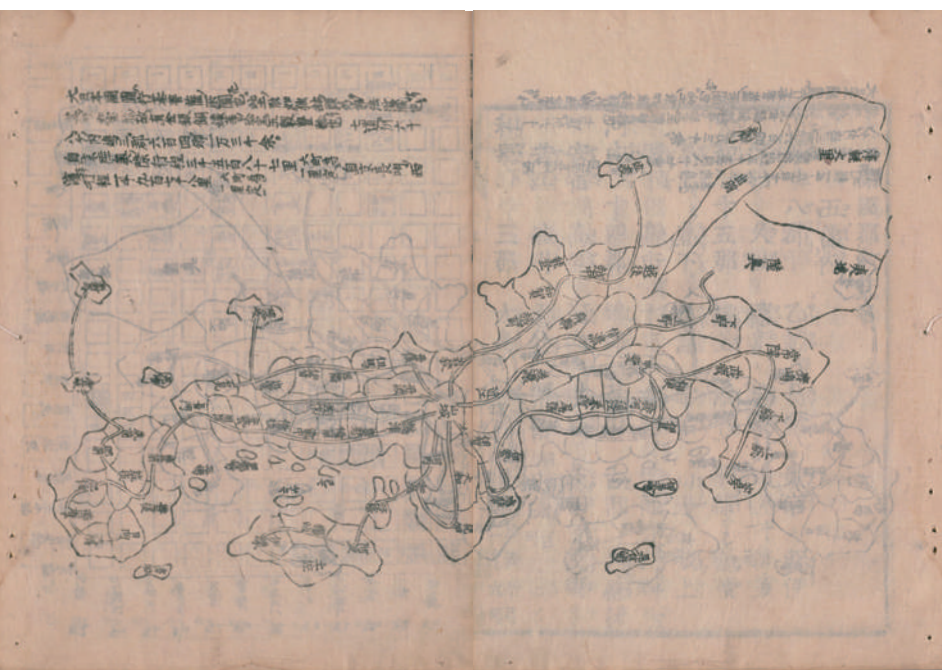
p.8 博覧会と都市

Disc-7: Mexico City | Field recordings by Martin Hernandez (Dumb Type + Ryuichi Sakamoto, Art Box Project, 2022) から想起したイメージ (c) 2019 Tamayo SUSAKI

都市を魅せる媒体

「魅せる」という言葉は造語であるものの、「魅」という字に他者をひきつけるという意味合いを持つため、「見せる」よりも強く「みせる」ことを表象する言葉だと考えられる。「都市を魅せる」という今回の見出しには、「すでに存在しているはずなのに認知することが難しい、都市に関する／都市の中での出来事に対する視座を提供してくれる行為」という意味合いを込めた。

そのうえで、本号では都市を魅せる「媒体」を特集する。最もわかりやすい媒体はキュレーションという行為による展覧会だが、一方で、地図や絵画、写真、グラフィックデザイン、歌、朗読などもその個性をもって私たちに都市を魅せてくれる媒体だといえるのではないだろうか。



洞院公賢【撰】ほか『拾芥抄：3巻』【4】、村上勘兵衛、明暦2(1656)。国立国会図書館デジタルコレクション

805
延暦24年

地図

国内で最古の日本地図
行基図

遣唐使たちは宗教を学ぶ一方で、最新の土木技術も習得して帰国した。布教を行う一方、各地のインフラ整備を行った。平安時代には『行基図』と呼ばれる日本最古の地図が作成された。測量には基づいていないが、各国の位置関係を示し、江戸時代初期までこの地図をもとに日本地図が作成された。最古の行基図は延暦24年だが、原図は失われており、慶長年間に作成された『拾芥抄』が出版地図としては最古のものである。

板橋貞雄（模写）『春日権現験記』第1軸、写、明治3(1870)。国立国会図書館デジタルコレクション



絵巻物

当時の風俗を現世に伝える
春日権現験記

『春日権現験記』(全21巻)は、藤原氏の氏神である春日神(春日権現)の霊験が大和絵で描かれた鎌倉時代の社寺縁起絵巻である。全巻が揃い、制作者も判明しており、日本の中世の風俗の様子を現世に伝える貴重な史料とされる。上は春日大社竹林殿の普請の様子であり、番匠(ばんしょう、大工)らが働く姿が克明に示されている。

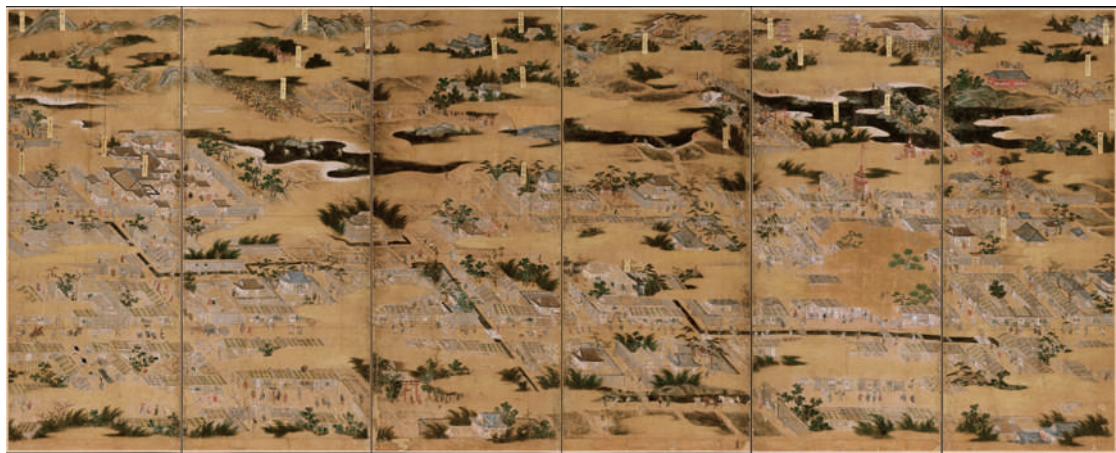
図屏風

京都の精密絵画
洛中洛外図屏風

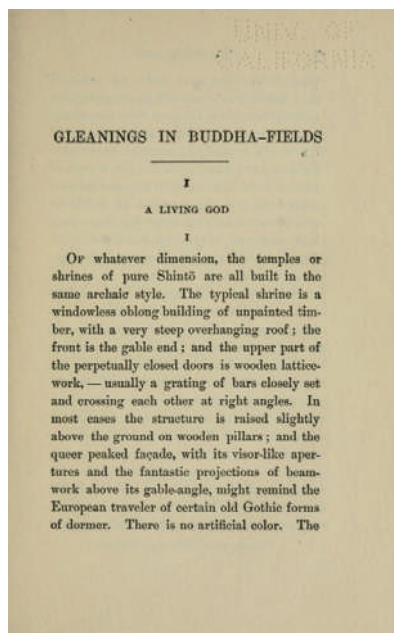
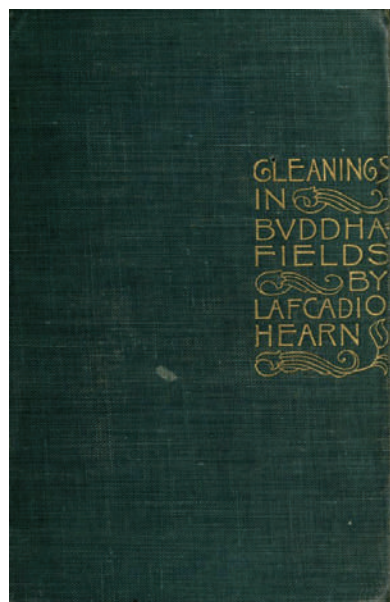
1525
大永5年頃



洛中洛外図は、京都の市街（洛中）と郊外（洛外）の景観や風俗が描かれた屏風絵。右隻に内裏を中心とした下京の町並みや鴨川、祇園神社、東山方面の名所が、左隻に武家屋敷や、船岡山、北野天満宮などが描かれる。また、洛中洛外図は四季絵や月次絵の要素をもち、季節を表す風物や行事が多数描かれている。数千人の人物から当時の風俗、職業、生活を見ることができる。



細川高国、『洛中洛外図屏風（歴博甲本）』[上]右隻,[下]左隻, 1525. 国立歴史民俗博物館所蔵



Hearn Lafcadio, Gleanings in Buddha-fields : studies of hand and soul in the Far East, 1897. 参照／Internet Archive



文部省、小學國語讀本 尋常科用, 卷十, 参照／国土交通省気象庁HP

小説、教科書

災害の物語を世界へ、次世代へ
稲むらの火

安政元年(1854年)12月23日安政の東海地震が発生、翌24日安政の南海地震による津波が紀伊国有田郡(現：和歌山県広川町)を襲った際、醤油醸造業者7代目儀兵衛は稲むら(稲束)に火を放ち、住民の高台避難を誘導した。この実話はラフカディオ・ハーン(小泉八雲)によって「A Living God」として綴られた。これを中井常蔵が「稲むらの火」として児童向けに書き直し小学校の教科書に採用された。これらの文章は、災害と避難を世界へ次世代へと伝えている。

空撮

東京之パノラマ景観 帝都俯瞰写真

安政5年(1858年)フランス・パリでナダールが世界初の空中撮影を行った。日本では、明治11年(1878年)に初めて軍用空中写真の撮影が試みられたとされる。日露戦争開戦の明治37年(1904年)、築地上空から日本で初めての東京のパノラマ景観が撮影された。西に芝離宮沖の海、中央に新橋、東に日本橋界限までが一望できる。これは「帝都俯瞰写真」と呼ばれ、明治43年(1910年)雑誌『日本之実業』新年号で、「軽気球にて空中より撮影したる我帝都東京市の壮観」の見出しで一般公開された。



軽気球にて空中より撮影したる我帝都東京市の壮観、実業之日本、1910年新年号。参照／探検コム

ポスター

近代的なインフラ整備 東洋唯一の地下鐵道

昭和2年(1927年)、浅草～上野間2.2kmで銀座線が開業。日本初かつ東洋初の地下鉄開業で、日本の近代化を示すインフラ整備事業のひとつであった。「東洋唯一の地下鐵道」というキャッチコピーと、モダンな装いをしたたくさんの人々で賑わう様子がデザインされている。



杉浦非水、東洋唯一の地下鐵道 上野浅草間開通、1927、愛媛県美術館蔵

東京国際空港



日本空港ビルディング航空教室編、東京国際空港パンフレット、昭和31年頃、画像提供／徳間書店

パンフレット

世界への玄関口 東京国際空港

昭和6年(1931年)8月、日本初の国営民間航空専用空港「東京飛行場」が開港。終戦後、接収中は「ハネダエアベース」として使用されたが、昭和27年(1952年)に大部分が返還され「東京国際空港」となった。世界の玄関口である空港を訪れた人々にむけて、パンフレットやしおり、見学ツアーなどを開催していた。

1960 昭和35年

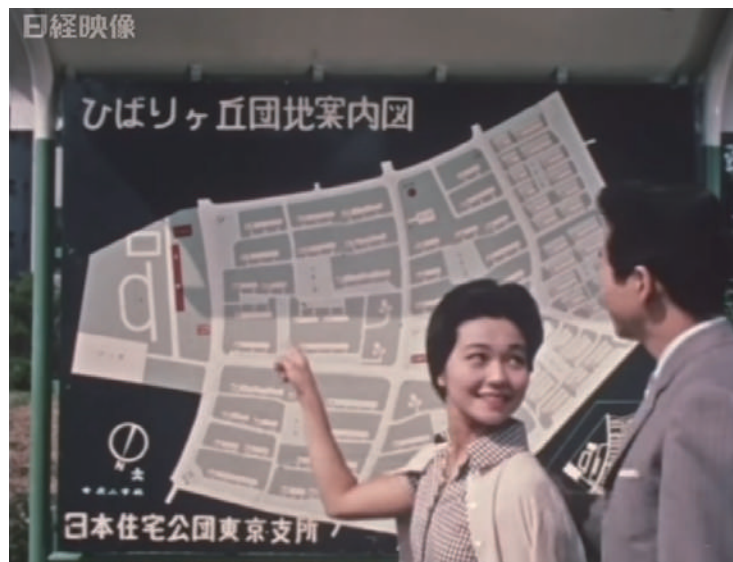
ホームビデオ

公団団地の住まい方 団地への招待

公団団地への入居に当選した家族が、兄弟姉の住む団地を訪ね、団地生活について学ぶというストーリーのビデオ。学校や商店、公園などの施設が言及され、電化製品や水洗トイレ、ダイニングキッチン、バランス釜風呂などがある「最先端」な暮らしが紹介される。団地生活が当時の人々にとって憧れの的であったことが窺える。

日経映像チャンネル, 団地への招待 (1960) 【高画質・公式完全版】

参照 / <https://youtu.be/saehM0Fr2tM?si=kxyToqitJUGyNYvk>



1967 昭和42年

童謡

NHKみんなのうた はしれちやうとつきゅう

東京オリンピック開幕直前、昭和39年(1964年)10月1日、東京～名古屋～大阪を結ぶ新しい交通インフラ東海道新幹線が開業。NHK みんなのうたで流れていた童謡「はしれちやうとつきゅう」は、「夢の超特急」と呼ばれた0系新幹線がビューワンと走る様子が歌詞になっている。開業当時の最高速度は210kmで、大都市間の移動の有り様を大きく変化させた。

「はしれちやうとつきゅう」

山中恒作詞・湯浅譲二作曲

ビューワン ビューワン はしる

あおい ひかりの ちやうとつきゅう

じそく250キロ

すべるようだな はしる

ビューワン ビューワン ビューワン はしる

ビューワン ビューワン はしる

まるい ひかりの ボンネット

じそく250キロ

とんでくようだな はしる

ビューワン ビューワン ビューワン はしる

森山大道, 記録54号, 2023.5.31, Akio Nagasawa Publishing

スナップ

日常を撮り手渡す 記録

「日常で撮ったものをすぐに焼いて、近くの人たちに手渡しで見せるという最小限のメディアを」と模索するなかで、1972年に始められた私家版写真集『記録』。一時休止したものの再開され、現在では50号を越える『記録』シリーズが発行されている。森山大道は、毎日3、4時間かけて、様々な風景・人景を捉え続けている。



1972-

2013—

ツアー

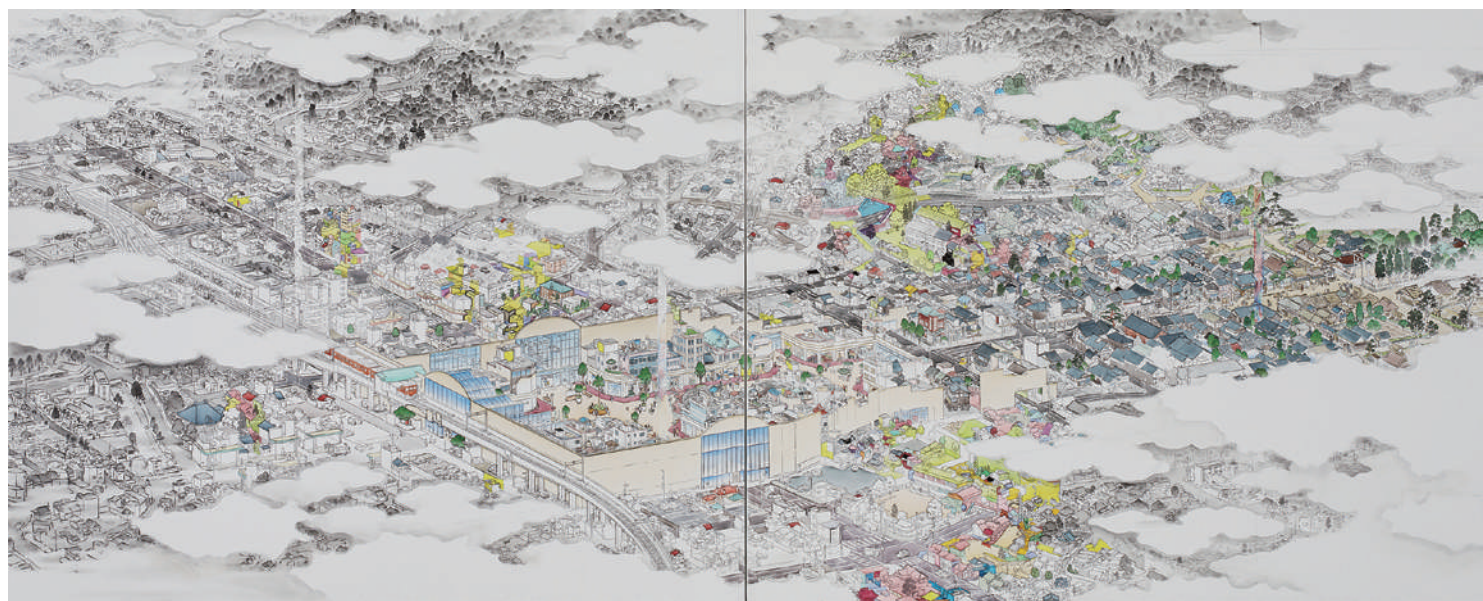
「もう一つの東京」に出会う、旅の演劇
東京ヘテロトピア

参加者はガイドブックとラジオを手に「東京の中のアジア」を20数カ所自由に回る。地図に記載された場所でラジオを周波数を合わせると、4人の詩人・小説家を書き下ろした物語が、日本語を母語としない語り手たちにより朗読される。見慣れたはずの東京が、まるで異国のように感じられる経験となる。確かに存在しているはずなのに、普段見えにくくなっている都市の側面が存在する。その見えにくさを魅せるプロジェクトである。現在は『東京ヘテロトピア』というアプリから同じ体験をすることができる。



高山明, 東京ヘテロトピア, 2013-, 参照/Port B

山口晃, ショッピングモール, 2015-, 大川美術館所蔵



2023

ショッピングモール

都市、宇宙、想像の源泉
モールの想像力

山口晃の『ショッピングモール』には、江戸時代から未来まで時空間の入り交じる桐生市のまちなみが描かれている。その中央を占めるのがショッピングモールである。文化批評の文脈においてショッピングモールは、社会を均質化し人情あふれる商店街を虐げる存在として批判されることが多かった。しかし『モールの想像力』展では、私たちの日常生活の不可分な一部となっていることは事実で、現代都市の最も重要な公共圏であり、カルチャーを育む文化的象徴だと捉えている。



モールの想像力 ショッピングモールはユートピアだ, 2023, 高島屋史料館TOKYO

2022

音

フィールドレコーディング
Art Box Project

ミュンヘンでの Dumb Type 展では、坂本龍一のディレクションのもと、世界 16 地域のフィールドレコーディング音楽が集められ、それぞれの場所の位置、時間、コントリビューターが切り取る固有の音が俯瞰的に再生された。絵の濃淡を音の強弱に置き換え音声データ化することで、各地の地図が盤上に浮かび上がっている。その都市の音を聞くことは、その都市の風景が思い起こされる経験となりうる。



Dumb Type + Ryuichi Sakamoto, Art Box Project, 2022



TMPR, 動点観測所 (35.39.36.02/139.42.5.98) , 2024, シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

2024

AI

AIと人間が観測する世界
動点観測所

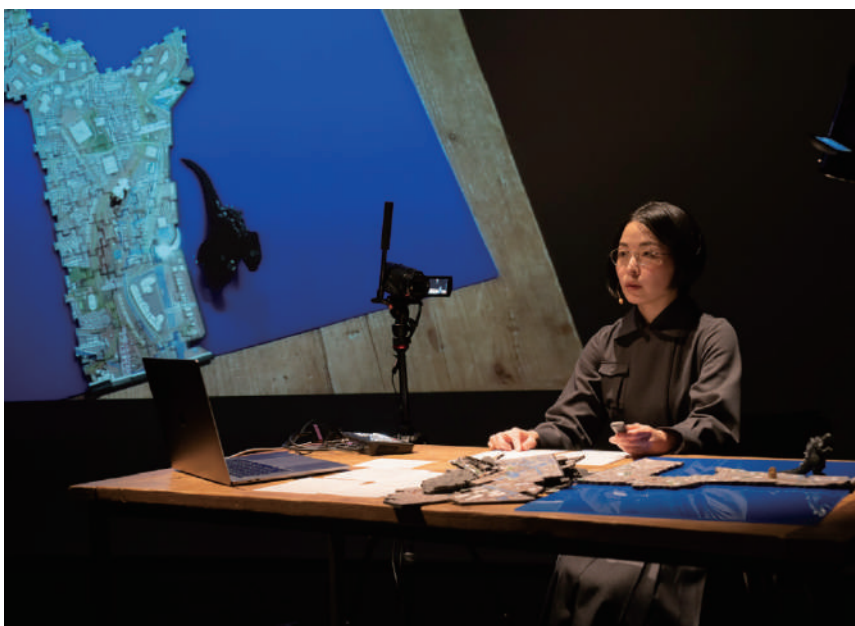
TMPR は、AI と人間が協働して世界を観測するリサーチ拠点「動点観測所(35.39.36.02/139.42.5.98)」を開所。ワークショップ参加者は渋谷のまちをチームごとに設定されたルートに沿って歩き、AI はそのルートをもとに参加者の体験を予測し、チームのまちあるき日記を生成する。AI による予測と、私達の実際の体感はいかに異なり、シンクロするのが検証される。

2024

構想／朗読

都市にひそむミエナイモノ
オバケ東京のためのインデックス 序章

1960 年、岡本太郎は「オバケ東京」という都市論を発表。ここでいうオバケとは、あるものごとを反対の角度から見つめたときに沸き立つ想像力のことで、オバケ東京とは、新鮮で魅力的で今の東京を触発するような構想として発表された。土地や歴史の膨大なリサーチをもとに、その場所に新たな「語り」を付与する手法を開拓する佐藤朋子はこのオバケ東京論に着目する。さらに同時代に生まれ、東京を破壊した「怪獣ゴジラ」にも着目し、その軌跡を追いかけるレクチャー型パフォーマンスを展開する。「構想」と「語り」によって、これまでと異なる東京への想像力が揺き立てられる。

佐藤朋子, オバケ東京のためのインデックス 序章, (c) Theater Commons Tokyo '21 / Photo: Shun Sato
『都市にひそむミエナイモノ (2024) 』に出展中の作品

1850

会場となった水晶宮の様子
博覧会 近代技術の展示場
「1851年ロンドン万博」より

1851 ロンドン万博

1867 パリ万博

1871 ウィーン万博

1877 第一回内国勸業博 @東京

1881 第二回内国勸業博 @東京

1890 第三回内国勸業博 @東京

1895 第四回内国勸業博 @京都

1900

1903 第五回内国勸業博 @大阪

1912 日本博覧会 ※中止

幻となった東京万博のポスター
アドミュージアム東京
「紀元二千六百年記念 日本万国博覧会」より

1940 東京万博 ※中止

1950

会場中央の大屋根の様子
丹下都市建築設計
「日本万国博覧会・
会場マスタープラン」より

1970 大阪万博

1975 沖縄海洋博

1985 つくば科学万博

1990 花の万博 @大阪

万博に向け建設されたリニモ
愛知県の公式観光ガイド Aichi Now
「愛・地球博記念公園」より

2000

2005 愛知万博

会場の予想完成図
EXPO2025「基本計画」より

2025 大阪・関西万博

2030

2027 GREEN×EXPO 2027 @横浜

博覧会と都市

2025 年、大阪・関西万博が開催される。会場自体は湾岸の夢洲だが、万博期間には世界中の人が大阪・関西を訪れ、大阪のまちや関西の諸都市といった「パビリオン」を巡ることから、万博は都市そのものを魅せる「展示会」ともいえる。

博覧会の歴史

世界初の万国博覧会（以下、万博）は 1851 年のロンドン万博とされている。日本からはパリ万博（1867）に初めて幕府・薩摩藩・鍋島藩が別々に参加し、ウィーン万博に正式に参加した。この後国内でも博覧会開催の動きがあり、内国勸業博覧会が五回開かれ、第五回では海外からの出展も見られた。こうして万博開催の機運が高まったが、日本博覧会は財政難で、東京万博は戦災で中止となり、日本での万博開催は戦後まで実現しなかった。大阪万博（1970）を皮切りに、日本でも万博が開かれるが、国際博覧会条約に基づく博覧会は、五年に一度の登録博（旧：一般博）と認定博（旧：特別博）に分類され、大阪万博（1970）、愛知万博、大阪・関西万博（2025）が前者に、沖縄海洋博、つくば科学万博、花の万博、および横浜市で開催予定の GREEN × EXPO 2027 が後者に該当する。

博覧会と都市プロモーション

そもそも、世界最初の万博となったロンドン万博は産業革命に成功したイギリスの姿を世界に示す役割があり、パリやウィーンも近代化した都市を魅せるために万博を開いた。また、国内でも東京万博を控えた戦前の東京では都市美運動が盛んだった。現在万博を控えた大阪では、目抜き通りの御堂筋の歩道拡幅や、ターミナル駅の大阪駅・難波駅前の歩行者空間整備など都市を魅せる準備が進んでいる。



社会実験後歩道拡幅された御堂筋
御堂筋まちづくりネットワーク
「御堂筋パークレット
社会実験について」より

博覧会とモビリティ

博覧会に合わせて都市開発や交通網整備が行われる場合が殆どだが、博覧会には新たなモビリティが導入されることも多い。古くは第四回内国勸業博のアクセス手段として京都で日本初の市電が運行され、大阪万博（1970）で導入された動く歩道や電気自動車はその後広く普及した。また、愛知万博に合わせて日本初の浮上式リニア鉄道が作られ、大阪・関西万博（2025）では空飛ぶクルマの導入を目指している。

博覧会と都市工・デザ研

万博の開催には都市工学科および都市デザイン研究室の教員も多く関わってきた。大阪万博（1970）の会場マスタープランは丹下健三氏が手がけ、パビリオンの一つである住友児童館は大谷幸夫氏が設計した。また、都市工学科設立に尽力した高山英華氏は大阪万博（1970）の跡地利用計画や沖縄海洋博、つくば科学万博の会場設計に大きく関わっていた。加えて、愛知万博の会場移転前の当初設計には宮城俊作氏や横張真氏が携わっていた。

本文参考資料

- ・ EXPO 2025 大阪・関西万博公式 Web サイト
- ・ 博覧会 近代技術の展示場
- ・ 博覧会の開催と開催都市の地域政策 — 国際博覧会の発展と日本における博覧会の展開 —
- ・ 外務省 日本における国際博覧会
- ・ 講談社 SDGs 参加から開催までおよそ 100 年。日本の「万博」の歴史 | 大阪・関西万博と SDGs【第 2 回】
- ・ 国土交通省 2025 年に開催される日本国際博覧会（大阪・関西万博）に関連するインフラ整備計画の概要
- ・ 産経新聞 万博未来考 第 1 部（3）空飛ぶクルマで移動革命 「未来の乗り物」示す意義（2024/1/23）
- ・ 日本建築学会計画系論文集 第 84 巻 第 763 号 日本万国博覧会会場設計プロセスと共同設計に関する研究
- ・ 日経 XTECH 70 年万博で覚醒、大谷幸夫の「住友児童館」一丹下健三を超える未来都市の視覚化（2019/11/25）
- ・ 日本建築学会計画系論文集 第 89 巻 第 815 号 跡地利用計画の観点からみた日本万国博覧会が沖縄国際海洋博覧会の計画に与えた影響
- ・ 日本造園学会 造園技術報告集 2005EXPO「愛・地球博」における造園技術の展開（論説編寄稿）

COLUMN

POSTSCRIPT

現在『都市にひそむミエナイモノ展』が行われている。みえないのではなく、みえるようになるための知識や視座、技術が不足・欠落しているということではないか。「芸術の仕事は不可視なものを可視化することではなく、不可視性を可視化すること」という M. フーコーの言葉を思い出す。とはいえ難しく考えすぎず笑、本特集が多様な都市の表象を楽しむきっかけとなれば幸いです。（M1 洲崎）

1

月号担当

M1 洲崎玉代



WEB MAGAZINE

続きはコチラ >>>

<https://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/blog/>

FACTORY SHOP OPEN 視察



富士吉田プロジェクト

富士吉田 PJ では機織り工場跡の活用、機織り文化の発信を活動目的の一つに掲げているが、現役工場の実態を調査すべく、工場見学を集中的に受け入れている FACTORY SHOP OPEN の視察を行った。丸幸産業、光織物、田辺織物の三つの工場を訪問させて頂き、思いや課題を沢山聞かせて頂いた。（M1 東條）

BOOK OF THE MONTH

文化資本の経営

福原義春
NewsPicks
パブリッシング
2023



企業が商品価値を持続するために培ってきた歴史的な蓄積を文化資本と捉え、いかに経済資本化と文化資本化を対立させずに経営するかを語る、資生堂名誉会長の名著が、24 年の時を超えて復刊。中盤では都市デザインの観点から、銀座では各企業が場所の意志を踏まえて空間をデザインするべきという主張もあり、彼の教養の広範さに驚かされる。企業で働くすべての人の必読書。（M2 森屋）